

# 高校教育の“改革”は進んでいるか

編集部では23回目となる「高校教育改革に関する調査」を昨年9月に実施。新学習指導要領への対応が進むなか、本特集では、Part 1で「ICT活用」「総合的な探究の時間」「社会で求められる力」について調査データを基に現状や課題を解説。Part 2では、社会で必要と考えられている「主体性」の具体について、研究者の武藤浩子先生にお話を伺いました。

## Part 1

### 高校教育改革に関する調査2024

41ページ

## Part 2

### <特別取材> これからの社会が 求める主体性とは？

47ページ

構成・文／長島佳子

## 調査概要

「高校教育改革に関する調査 2024」

- 調査対象：全国的全日制高等学校4679校
- 調査方法：郵送調査＋インターネット調査
- ※校長宛てに調査票を郵送、回答を記入のうえ郵送にて返送または記載のURLからWeb調査に回答
- 調査期間：2024年9月5日(木)～9月20日(金)
- 有効回答数：671件(回収率14.3%)

注) 前々回調査は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により当初予定2020年を2021年に変更し実施。また、2016年(第19回)までは高校の進路指導やキャリア教育の実態を明らかにするため「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」として実施。

## 【回答者プロフィール】

- 設置者別  
国公立473校(70.5%) 私立198校(29.5%)
- 高校タイプ別  
普通科単独校383校(57.1%) 普通科と他学科併設130校(19.4%) 総合学科38校(5.7%) 専門学科91校(13.6%) その他12校(1.8%) 無回答17校(2.5%)
- 地域区分  
北海道53校(7.9%) 東北83校(12.4%) 北関東・甲信越62校(9.2%) 南関東126校(18.8%) 東海67校(10.0%) 北陸20校(3.0%) 関西77校(11.5%) 中国・四国78校(11.6%) 九州・沖縄105校(15.6%)
- 校務分掌別(※複数部署による回答あり)  
校長12校(1.8%) 副校長・教頭33校(4.9%) 主幹教諭32校(4.8%) 教務主任25校(3.7%) 進路指導主事503校(75.0%) 学年主任10校(1.5%) 進路指導部109校(16.2%) 教務部7校(1.0%) 学年担当31校(4.6%) その他15校(2.2%) 無回答15校(2.2%)

※本文中は調査結果の数値を小数点第1位四捨五入で記載しています。

## Section 1

### ICT活用

準備段階から効果的な活用検討の段階に。  
近年急進する「生成AI」への期待も

日常的なツールとなったICT  
生徒の自学自習への期待

GIGAスクール構想のさなかに発生したコロナ禍で、構想計画を前倒ししてICT活用は急速に導入が進んだ。それを裏付けるように既に99%の高校で授業、ホームルーム、探究などの教育活動にICTを活用している結果となった(図表割愛)。

ICTの活用方法としては、「宿題・課題の配信」が最も高く92%と、大多数の学校で活用されていた。また、「コ

ナ禍に多く利用された「オンラインによる双方向型授業・学習支援」は45%と半数を割っているものの、授業での活用のなかでは高い位置を占めている。【現在の活用方法】と【今後の教育活動における活用方法】の比較では、「外部との連携強化・計」の項目について現在が26%、今後が47%で、地域や海外、他校との連携にICTを有効活用していきたいと考えられている(図1)。

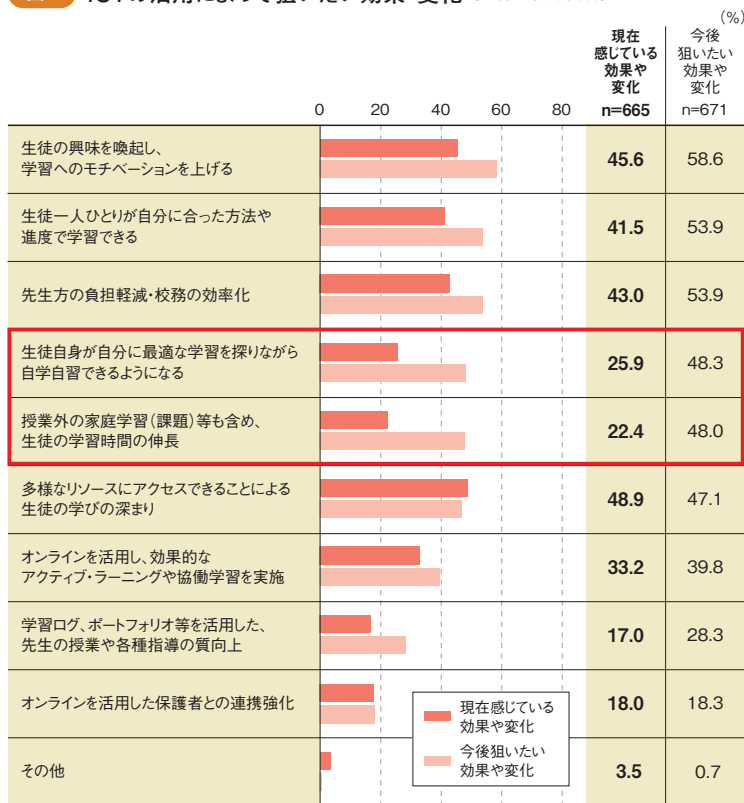
ICTの活用によって狙いたい効果・変化については、経年による順位に大きな変化はなかったが「生徒自身が自

図1 今後の教育活動におけるICT活用方法 (全体／複数回答) (%)

|                                                               | 現在の活用方法<br>n=665        | 今後の教育活動におけるICT活用方法<br>n=671 |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| 授業での活用                                                        | オンラインによる双方向型授業・学習支援     | 45.4                        |
|                                                               | 動画配信によるオンデマンド型授業        | 29.8                        |
|                                                               | 対面とオンラインのハイブリッド型授業      | 26.5                        |
| コミュニケーション活用                                                   | 宿題・課題等をオンラインで配布         | 92.0                        |
|                                                               | 学校と家庭とのコミュニケーション        | 49.3                        |
|                                                               | ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施 | 17.9                        |
| 外部との連携強化                                                      | 地域社会や海外との連携、協力の強化       | 20.3                        |
|                                                               | 他の高校との連携、協力の強化          | 12.8                        |
|                                                               | その他                     | 3.2                         |
|                                                               | まだ活用のイメージがない            | —                           |
| <div> <div></div>現在の活用方法 <div></div>今後の教育活動におけるICT活用方法 </div> |                         |                             |
| 授業での活用・計                                                      | 61.4                    | 55.4                        |
| 宿題・課題の配信                                                      | 92.0                    | 56.2                        |
| コミュニケーション活用・計                                                 | 57.6                    | 39.8                        |
| 外部との連携強化・計                                                    | 25.6                    | 46.8                        |

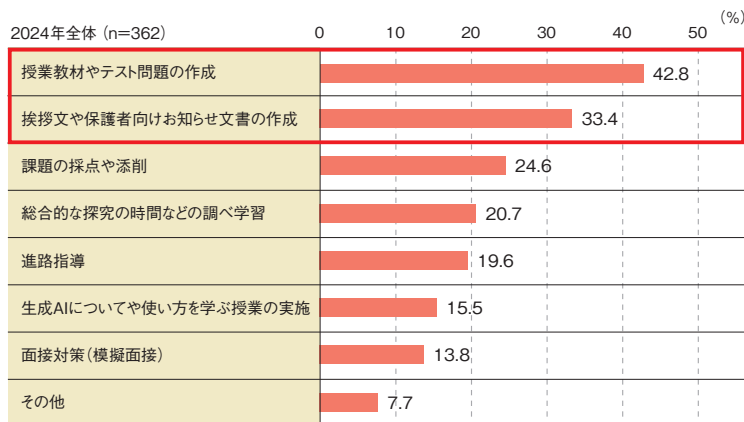
※現在の活用方法は、「ICT活用」実施校ベース  
※カテゴリごとに現在の活用方法の降順ソート

図2 ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体／複数回答）



※「現在感じている効果や変化」は、「ICT活用」実施校ベース  
 ※「その他」を除く項目で、「今後狙いたい効果や変化」全体の降順ソート

図3 「生成AI」の活用場面（「生成AI」活用校／複数回答）



※「無回答」を除く項目で、全体の降順ソート

#### フリーコメント1

### 「AI」出現への期待と不安

#### 「期待」

- 業務の効率化や時間短縮、新しい学び方や学ぶ内容が出てくること[広島/私立/普通科]
- 生徒が自分だけでは思いつかない考え方をAIによって発見することができるなど、思考力が深まることが期待される[兵庫/私立/普通科]
- 個別最適な学習を実践するうえで、人間では気づくことのできない生徒の課題や傾向を分析し、最適な学習方法を設定できれば良いと思う[愛知/県立/専門学科]

#### 「不安」

- 頼りすぎると、考える力、知識の蓄積など、人間としての力が減退すること。一方向に誘導するようなAIの出現[青森/私立/普通科と他学科併設]
- 簡単に答えを得られるようになり、粘り強く努力を継続する資質も失われていくと心配[大分/県立/普通科]
- 志望理由書などがどれも同じようなものになってしまう、可否の判断材料として機能しなくなってしまうこと[新潟/私立/普通科]

分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる」が7ポイント増加し、前回調査の2022年の7位から4位に上昇した（図表割愛）。また、「現在感じている効果や変化」と「今後狙いたい効果や変化」の比較では、「生徒自身が自分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる」の現在が26%、「授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長」の現在が22%のところ、共に今後の狙いたい効果や変化が48%とおおよそ2倍の開きを示した（図2）。生徒の自学

自習、家庭学習など、生徒自身が主体的に学ぶことについてのICTへの期待がうかがえる。

**期待と不安の双方が入り交じり注目度が高いAI活用**

ここ数年、非常に速いスピードで社会に広がりを見せている生成AI。学校での活用状況を見ているところ、調査時点では「教員個人で活用している」が50%と、「使い始めていない（活用はまだこれから）」の46%に二分。組織的な活用は4%に留まっていた（図表割

愛）。しかし、生成AIは社会生活に急速に浸透し始めており、日々新しいアプリやソフトが出現し、日常的に使われている検索エンジンや文書作成ソフトにも組み込まれ始めているため、調査から半年が経過した現在では利用率が高まっていることも考えられる。

既に活用している回答者の活用場面では、「授業教材やテスト問題の作成」が43%と最も高く、次いで「挨拶文や保護者向けお知らせ文書の作成」が33%と上位を占めた（図3）。フリーコメント1で示すように生成AIには教

員の業務効率化や生徒の学習支援への「期待」が高い反面、AI依存による生徒の思考力や創造力、主体性の低下、課題や志望理由書などの作成に利用された場合の判定の難しさなどの「不安」の声も多数寄せられ、注目度の高さがうかがえる。新しいテクノロジーに対する課題はありつつも、生成AIが今後のICT活用の中核の一端を担っていく可能性が感じられた。

取り組みの進捗・深度とも進み、  
生徒の変化や入試への活用に期待が高まる

多様なテーマで活動が進行  
探究課題の設定に難しさも

全学年が新学習指導要領でのカリキュラムとなった2024年度。「総合的な探究の時間」への取り組みは「導入・計」が前年同様、97%となり、そのほとんどとなる86%で組織的に取り組んでいる(図表割愛)。フリーコメント2で例示しているように、具体的な探究内容は、地域課題の解決や地域活性化、企業との連携、社会に関するテーマ、キャリア教育・進路探索・自己分析など多岐にわたっている。

しかし、導入校における、取り組みにあたり最も難しいと感じるステップとしては、「課題の設定」が6割を超えている(図4)。その理由に対する自由記述のなかでは、生徒自身がやりたいことを見つける難しさや、高校生の知識の範囲では課題設定が似通ってしまうこと、設定した課題の解決と学校として育成したい力との関連性など、より良い探究活動にしたいという思いからの悩みがうかがえる。教員自身の担当教科・科目の授業であれば課題設定も促しやすいが、教科横断で生徒が自分自身の興味・関心と向き合う場面

で、教員がどのように介入すべきか難しいと感じているのかもしれない。

生徒への好影響が増加する一方  
教員自身の課題感が高まる

「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化として「そう思う・ややそう思う」の割合が最も高いのは、「主体性・多様性・協働性が向上した」で67%が変化を感じている(図5)。2022年と比較すると、「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」を除いたすべての項目で、「そう思う・計」の割合が増加している。学習指導要領で育むべきとされている学力や資質・能力に対して、総合的な探究の時間の効果を感じ始めていることがうかがえる。

ただし、「基礎的な学力(知識および技能)」が向上した」は経年増加は見られるが、「そう思う・計」の割合は25%と他の項目に比べて低い。学習指導要領における「学力の三要素」のうち、前述の「主体性・多様性・協働性」と「思考力・判断力・表現力」の二つは向上している一方で、それが「知識・技能」と連関するにはまだ至っていないと感じる教員が多いようだ。

取り組み状況別で見ると、学校全体

#### フリーコメント2

#### 具体的な探究内容

##### 【地域について】

● 地域を題材に、地域課題を見つけ、その解決策を大学生と協働で模索し、町民に発表する活動【北海道/道立/普通科】

● 市と連携し活動を行い、市を活性化するためのテーマを設定し、探究活動を行っている【兵庫/県立/普通科】

##### 【企業との連携】

● 生徒個々に内在する「好き」なことを追求できるテーマを設定させ、外部(連携大学や地元企業)の協力を得ながらアクションとブラッシュアップを繰り返す探究活動【宮崎/県立/普通科】

##### 【社会課題】

● 社会的な問題のなかでも、経済、教育、医療・福祉など、興味・関心がある分野を基に組み込む【兵庫/県立/普通科と他学科併設】

● 各自の進路希望とSDGsを関連づけて課題を設定し、チームを作り協働して課題解決への手立てを考察【山梨/県立/総合学科】

##### 【キャリア・進路】

● 未来をより良く生きるために「幸せ」を探り「好き」を究める進路探究プロジェクト【神奈川/県立/普通科】

● 生徒の興味のある分野でゼミ形式の講座を展開し、ゼミの授業のなかでそれぞれの生徒の興味に合わせて課題設定している【長野/私立/普通科】

図4 取り組みにあたり最も難しいと感じるステップ(「総合的な探究の時間」導入校/単一回答)

|          | 難しいと感じるステップがある・計 |       |       |        |     |      | 難しいと感じるステップがある・計 |
|----------|------------------|-------|-------|--------|-----|------|------------------|
|          | 課題の設定            | 情報の収集 | 整理・分析 | まとめ・表現 | その他 | 特になし |                  |
| (n=652)  |                  |       |       |        |     |      | (%)              |
| 2024年 全体 | 62.1             |       |       |        | 6.1 | 9.0  | 90.8             |
|          |                  |       |       |        | 5.4 | 8.1  |                  |
|          |                  |       |       |        |     | 8.7  |                  |
|          |                  |       |       |        |     |      | 0.5              |

図5 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化(「総合的な探究の時間」導入校/各単一回答)

|                      |               | そう思う・計 |        |           |           |        | そう思う・計 |          |
|----------------------|---------------|--------|--------|-----------|-----------|--------|--------|----------|
|                      |               | そう思う   | ややそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない | そう思う・計 | そう思わない・計 |
| 基礎的な学力(知識および技能)が向上した | 2024年 (n=652) | 4.3    | 20.7   | 51.4      | 17.0      | 6.3    | 25.0   | 23.3     |
|                      | 2022年 (n=895) | 2.8    | 19.8   | 54.6      | 17.8      | 4.7    | 22.6   | 22.5     |
| 思考力・判断力・表現力が向上した     | 2024年 (n=652) | 10.4   | 47.2   | 33.0      | 6.9       | 2.1    | 57.7   | 9.0      |
|                      | 2022年 (n=895) | 8.7    | 44.4   | 37.4      | 7.7       | 0.3    | 53.1   | 9.2      |
| 主体性・多様性・協働性が向上した     | 2024年 (n=652) | 14.4   | 52.5   | 25.5      | 5.4       | 2.0    | 66.9   | 7.4      |
|                      | 2022年 (n=895) | 12.4   | 48.9   | 31.2      | 5.5       | 1.7    | 61.3   | 7.2      |
| 学びに向かう姿勢・意欲が向上した     | 2024年 (n=652) | 6.4    | 37.6   | 42.3      | 10.0      | 3.4    | 44.0   | 13.3     |
|                      | 2022年 (n=895) | 6.7    | 37.3   | 44.6      | 9.3       | 1.8    | 44.0   | 11.1     |

図6 「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員・学校の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答）

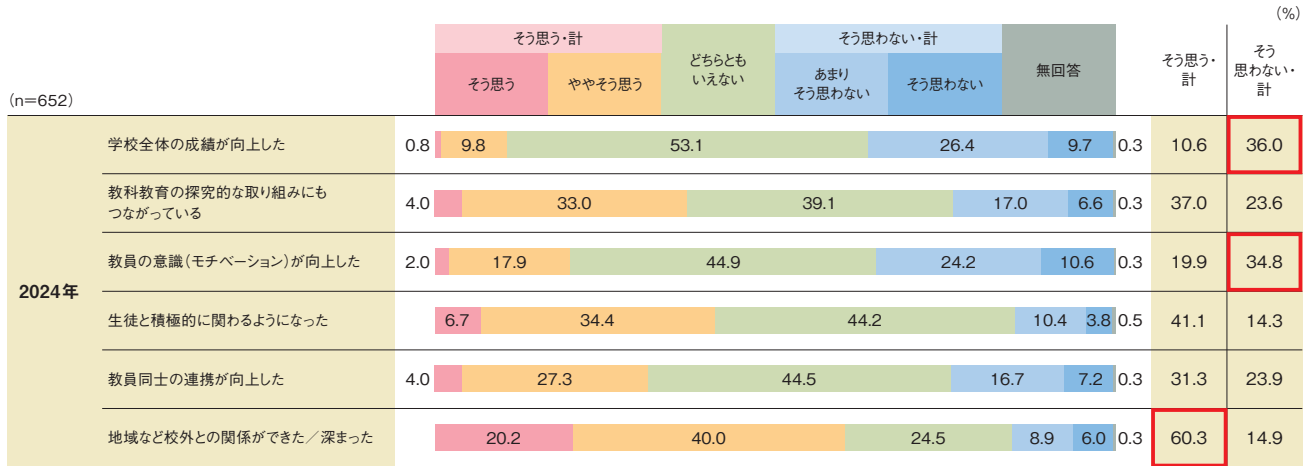
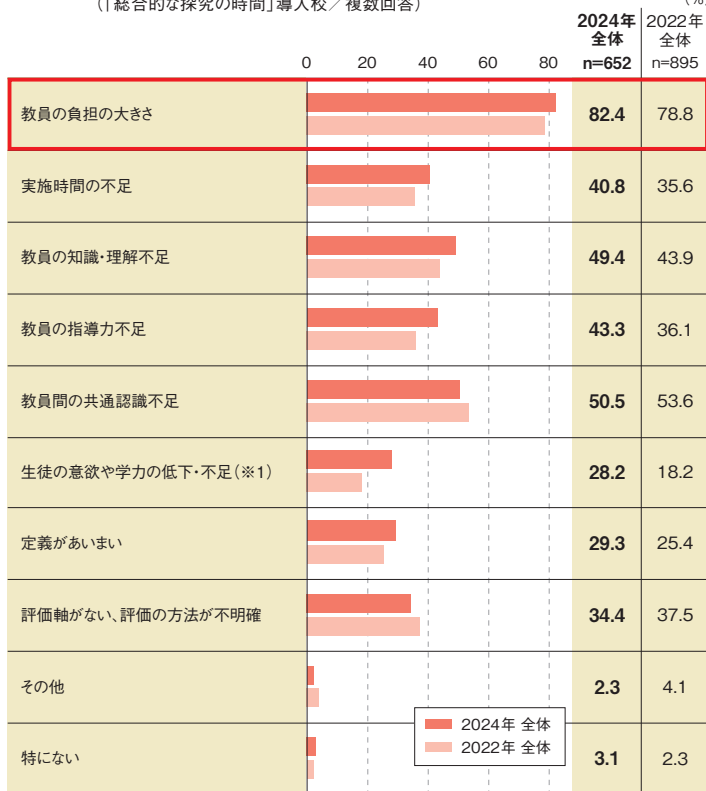


図7 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題

(「総合的な探究の時間」導入校／複数回答)



※1 2022年までの選択肢は「生徒の意欲や学力の低下・欠如」

で組織的に取り組んでいる高校は、生徒の変化についてのすべての項目が全体と比較して高い結果となった(図表割愛)。逆に一部の教員だけで取り組んでいる高校は、すべての項目でスコアが低く、生徒の変化・成長のためには組織的に取り組むことが期待される。「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員・学校の変化としては、「地域など校外との関係ができた／深まった」の「そう思う・計」が60%で群を抜いている(図6)。地域の課題解決をテーマに取り組んでいた、校内資源

だけでは生徒の興味・関心に応えられなかったりする場合に、積極的に校外の力を借りていると考えられる。一方で、「学校全体の成績が向上した」「教員の意識(モチベーション)が向上した」は「そう思う・計」が低く、いずれも「そう思わない・計」が35%前後を占めている。

教員の意識の向上のポイントが低かった一因とも考えられるのが、「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題だ。【教員の負担の大きさ】が82%と、大多数の教員が課題を感じて

いる。この傾向は2022年とほぼ変わらず、【教員間の共通認識不足】【評価軸がない、評価の方法が不明確】以外のすべての項目で2022年よりも増加している(図7)。総合的な探究の時間への取り組みが深まっていくほど、課題がより浮き彫りになっているようだ。

「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについては、「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」が2021年は3位、2022年は2位だったのが、今回はトップとなり、「志望校や志望分野選びにつながる」も増加傾向にある(図表割愛)。しかし、「自己の生き方・在り方につながる」や「前向きな進路選択の態度の醸成につながる」は減少傾向だった。探究活動を行うことによって、生徒自身の志望分野が明確になり、成果を総合型選抜に活用するなど、進学先にアプローチする直接的な効果は感じているが、生徒が本質的に自己と向き合ったり、その結果、自分の未来を前向きに考えることへの結びつきを感じにくくなっている様子がうかがえる。探究活動が進路選択のツールの一つに留まらず、進学や就職など短期的な進路だけでなく将来の自分の在り方を考えるきっかけとなることに期待したい。

社会で求められる力

## 「主体性」「課題発見力」の育成が 引き続き高校教育への課題

### 今後の社会の好ましさは拮抗 多様性をどう捉えるかがカギ

これからの社会の好ましさは、「好ましい社会だ・計」が50%、「好ましくない社会だ・計」が47%と拮抗した結果となった。「好ましくない社会だ・計」が「好ましい社会だ・計」よりも13ポイントも上回っていた前回の2022年調査よりも好ましい社会になるという意見が増したが、経年で比較すると、「好ましい社会だ・計」が6割だった前々回の2021年の水準には届いていない(図8)。

回答に対する理由を例示したのがフリーコメント3だ。「好ましい」の回答者は社会の変化や技術の発展、生徒の求められる力が幅広くなっていくことへの期待感を示している。ただし、IT技術などの進歩に対しては「情報収集能力が高ければ」「AーやーTをうまく使いこなすことができれば」という条件付きの回答も散見された。例示した分類外だが、「とても好ましいものにしていくのが教育の役割だから」「徳島/県立/普通科」という希望を感じられる回答もあった。

一方「好ましくない」の回答者は、少

子高齢化社会や、格差社会への懸念が多い。特徴的だったのが、「多様性」については「好ましい」と「好ましくない」の双方で声が多かったことだ。多様性を機会創出と捉えるか、混乱の原因と捉えるかで社会の見方が変わってくるようだ。生徒や教員自身の価値観、進路選択、職業、協働する人々など、学校を取り巻くさまざまな環境が多様化していくなかで、先生たちの期待と苦悩、混乱が垣間見え、これからの社会を好ましいと感じるか好ましくないと感じるかが拮抗した要因にもなっているように見える。

### 必要能力で「柔軟性」が増加 生徒は「発信力」が伸長

経済産業省で定義されている「社会人基礎力」の12の要素のうち、社会で働くにあたって【特に必要とされる能力】と【生徒が現在持っていると思う能力】をそれぞれ3つまで選んでもらったものを経年で比較したのが次ページの図9だ。

【特に必要とされる能力】の上位を見ると、1位「主体性」52%、2位は「課題発見力」43%、3位「実行力」25%と、前回の2022年と上位の顔ぶれに変

図8 「これからの社会」の高校生にとっての好ましさ(全体/単一回答)

|       |    |           | 好ましい社会だ・計  |             | 好ましくない社会だ・計   |              | 無回答 | 好ましい社会だ・計 | 好ましくない社会だ・計 | (%) |
|-------|----|-----------|------------|-------------|---------------|--------------|-----|-----------|-------------|-----|
|       |    |           | とても好ましい社会だ | まあまあ好ましい社会だ | あまり好ましい社会ではない | 非常に好ましくない社会だ |     |           |             |     |
| 2024年 | 全体 | (n=671)   | 4.6        | 45.8        | 42.8          | 3.9          | 3.0 | 50.4      | 46.6        |     |
| 2022年 | 全体 | (n=943)   | 3.6        | 39.2        | 51.1          | 4.3          | 1.7 | 42.8      | 55.5        |     |
| 2021年 | 全体 | (n=1,156) | 6.9        | 53.0        | 33.8          | 2.6          | 3.6 | 59.9      | 36.4        |     |

### フリーコメント3

## 『「これからの社会」の好ましさ』の理由

### 「好ましい」

#### 【個性や多様性への理解の深まり】

- 困難な社会であると思うが、さまざまな価値観をもつ人と協働しやすいのは好ましいと考える[愛媛/県立/普通科]
- 少しずつではあるが、学歴主義から実力主義に転化しているように感じる。多様性が認められる社会になりつつある[大阪/私立/普通科]
- 多様性が認められていく社会だから進路選択を自己決定し、なりたい職業に就くことができるから[鹿児島/市立/専門学科]
- 人権感覚が醸成されてきたように感じるから[岐阜/県立/総合学科]

#### 【生徒への期待】

- 情報収集能力の高い生徒は、さまざまな機会や学びなどを活用し、自分の望んだ(ものにちかい)人生を歩むことができ

るため[愛知/私立/普通科]

- 生徒がどこで学んだかではなく、何を身につけ何ができるかということが重要になってきているため[北海道/道立/専門学科]
- これからの社会は生徒が作っていくので[広島/私立/普通科]

#### 【技術の発展】

- ITやAIも含め、生活水準は間違いなく向上しているため。重要なのはその使い方と向き合い方[東京/都立/普通科]
- 現在の産業界は自動化への移行過程の最中で不十分でいつまで続くかも不明瞭なものの、技術者が技能者か、社会に求められているものが明確になれば、好ましくなっていくかもしれない[静岡/県立/専門学科]

### 「好ましくない」

#### 【多様性の拡大と価値観の混乱】

- 多様性が広がるなか、自己主張が強い生徒も増えており、あらゆる場面で取捨がつかなくなりそうだから[富山/県立/普通科と他学科併設]
- 価値観の多様化やコロナ禍の影響もあり、休んだり諦めたり続けていたことを止めたりすることへのハードルが下がっているように感じている。指導する側、教える側の人声がけの方法・内容をよく考える必要があることは、良い面もある一方で、気づく、改善する、粘り強くがんばることをこれまで以上に、指導される側、教えられる側の人自身に求められる社会になっているように思う[愛知/市立/普通科]

#### 【少子高齢化による社会不安】

- 少子高齢化が進み、社会保障費など

の負担が大きくなる。人権などに配慮するあまり、自由な発言や表現が制限される[京都/府立/総合学科]

- 少子高齢化が進み、物価高も続いているため、将来に生徒たちが希望を見出しにくい社会になっているように感じるため[広島/私立/普通科]

#### 【教育機会や経済の格差の拡大】

- 自由主義を標榜する一方で格差の拡大が生じる。しかしセーフティネットは不足してしまう[大分/県立/無回答]
- 地道な努力よりも、成果が重視され、うまくいった方が有利、正直者がバカを見る場面が多くなった。経済格差は一層広がり、弱者が這い上がるチャンスも少ない[静岡/県立/普通科と他学科併設]

化は見られなかったが、前回ポイント  
を上げていた「課題発見力」は5ポ  
イント低下した。また、前回4位(27%)の  
「創造力」は経年で減少傾向にあり、  
今回は5位(23%)に順位を落とした。  
今回は5位(23%)に順位を落とした。  
入れ替わって4位になったのが「柔軟  
性」(24%)で経年でも増加傾向を示し  
ている。「柔軟性」も含め、上位ではな  
いが、チームで働く力に分類される  
「ストレスコントロール力」「傾聴力」は  
経年で上昇傾向が見られる。ただし、  
2021年まで上位にいた「発信力」は  
2022年は6位、今回は9位と低下  
傾向にある。

【生徒が現在持っていると思う能力】  
の上位は1位「規律性」(44%)が突出  
しており、2位「傾聴力」(29%)、3位  
「柔軟性」(24%)と、前回の2022年  
と上位に変化はなかった。しかし、「柔  
軟性」は微増していたが、「規律性」「傾  
聴力」は減少傾向にあり、特に「規律  
性」は前回よりも12ポイントも減少し  
ている。「発信力」は年々増加傾向にあ  
り、前回6位(14%)から今回4位(16  
%)に上昇した。

## 社会で求められる力と 生徒の現状をどう埋めていくか

【特に必要とされる能力】の上位であ  
る「主体性」「課題発見力」のスコアは  
【生徒が現在持っていると思う能力】  
とのギャップが依然として大きい。「課  
題発見力」については、総合的な探究

の時間で先生たちが「課題の設定」を  
最も難しいと感じている(43ページ  
4)こともあり、一朝一夕での解決は  
難しく、探究活動を今後より深めてい  
くことで身につけていくことが期待さ  
れる。

一方の「主体性」についてはどのよう  
に育んでいけば良いか。今回編集部で  
は、「主体性」とはそもそも具体的にど  
んな力なのかという原点に立ち返っ  
てみた。経済産業省が定義した「社会  
人基礎力」で「主体性」は「物事に進ん  
で取り組む力」とされている。これが定  
義されたのは2006年と約20年前で  
あり、当時と現在とでは社会の状況は  
激変しており、求められる力も変  
わっていることが考えられる。実際に  
採用の現場などで重要視される項目  
は企業によっても、同じ企業でも時代  
によって変わるものだ。

そこで、社会で求められる主体性  
について研究し著書も出版している早稲  
田大学教育・総合科学学術院の武藤  
浩子先生にお話を伺った(次ページ参  
照)。そこで語られたのは、学校と企業  
では主体性の捉え方が異なっているこ  
とだった。それを知らずして、社会で  
求められる主体性を学校で育むこと  
は難しいのではないだろうか。企業が  
考える主体性について、高校ではどこ  
までをどのように育成すれば良いかの  
アドバイスも頂いた。

図9 社会で働くにあたって【特に必要とされる能力】と【生徒が現在持っていると思う能力】(全体/3つまでの複数回答)

